

米国農務省穀物等需給報告(2025 年1月 10 日発表のポイント)

令和7年1月14日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、1月10日(現地時間)、2024/25年度の9回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2024/25年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み) (※↑↓→は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 28億2,040万トン(対前年度比 0.01%増) ↓
- ② 消費量: 28億5,491万トン(対前年度比 1.4%増) ↓
- ③ 期末在庫量: 7億6,093万トン(対前年度比 4.3%減) ↓
期末在庫率: 26.7%(対前年度差 1.6ポイント減) ↓

【主な品目別の動向】

小麦: ウルグアイで生産量が引き下げられたものの、シリアとパキスタンで生産量が引き上げられたこと等を受け、前月より上方修正された。世界全体の生産量は前年度より増加する見通し。世界の消費量も前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回るため、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量: 7億9,324万トン(対前年度比 0.3%増) ↑・豪州、カザフスタン、米国、中国、インド、カナダ等が増加、EU、ロシア、英国等で減少
- 2 消費量: 8億189万トン(対前年度比 0.5%増) ↓・中国等で減少
- 3 期末在庫量: 2億5,882万トン(対前年度比 3.2%減) ↑・米国等が増加、EU、ロシア等で減少
期末在庫率: 32.3%(対前年度差 1.2ポイント減) ↑

とうもろこし: 中国、ガーナ、ロシアで生産量が引き上げられたものの、米国で単収の減少により生産量が引き下げられたこと等を受け、前月より下方修正された。なお、中国の生産量は史上最高の2億9,492万トンに上方修正されている。世界全体の生産量は前年度より減少する見通し。世界の消費量は前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回るため、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量: 12億1,435万トン(対前年度比 1.3%減) ↓・中国、ブラジル、南アフリカ等が増加、米国、ウクライナ、EU、ロシア等で減少(前月に比べ、米国で下方修正)
- 2 消費量: 12億3,847万トン(対前年度比 1.7%増) ↑・中国、ブラジル、アルゼンチン等が増加、EU等で減少(前月に比べブラジル等で上方修正)
- 3 期末在庫量: 2億9,334万トン(対前年度比 7.6%減) ↓・ブラジル、米国、中国等で減少(前月に比べ、米国等で下方修正)
期末在庫率: 23.7%(対前年度差 2.4ポイント減) ↓

コメ(精米): 米国で長粒種の単収が史上最高を記録したこと等からテキサス州及びミズーリ州を中心に生産量が引き上げられたものの、中国で生産量が引き下げられたこと等を受け、前月より下方修正された。しかしながら、世界全体の生産量は前年度より増加する見通し。世界の消費量も前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るため、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 5億3,287万トン(対前年度比 2.0%増) ↓・インド等が増加
- 2 消費量: 5億3,024万トン(対前年度比 1.2%増) ↓・インド等が増加、中国等で減少
- 3 期末在庫量: 1億8,213万トン(対前年度比 1.5%増) ↓・インド等が増加
期末在庫率: 34.3%(対前年度差 0.1ポイント増) ↓

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

米国で収穫面積及び単収の減少により生産量が引き下げられ、ロシア及び中国でも生産量が引き下げられたこと等を受け、前月より下方修正された。しかしながら、世界全体の生産量は前年度より増加する見通し。世界の消費量も前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るため、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 4億2,426万トン(対前年度比 7.4%増) ↓・ブラジル、米国、アルゼンチン等が増加(前月に比べ、米国等で下方修正)
- 2 消費量: 4億553万トン(対前年度比 5.5%増) ↑・中国、アルゼンチン、米国等が増加
- 3 期末在庫量: 1億2,837万トン(対前年度比 14.2%増) ↓・アルゼンチン、ブラジル、中国等が増加(前月に比べ、米国等で下方修正)
期末在庫率: 31.7%(対前年度差 2.4ポイント増) ↓

世界の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2025年1月10日発表)

【穀物】

(単位：百万トン)

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	(予想)	2024/25		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		2,762.11	2,820.09	2,820.40	0.01%	▲ 5.4	2,299.4
消費量		2,770.74	2,816.10	2,854.91	1.4%	▲ 0.9	2,287.2
期末在庫量		791.46	795.45	760.93	▲ 4.3%	▲ 2.7	481.0
期末在庫率		28.6%	28.2%	26.7%	▲ 1.6	▲ 0.1	21.0%
小麦							
生産量		789.89	791.02	793.24	0.3%	0.3	660.8
消費量		789.58	797.83	801.89	0.5%	▲ 0.6	680.3
期末在庫量		274.27	267.47	258.82	▲ 3.2%	0.9	180.6
期末在庫率		34.7%	33.5%	32.3%	▲ 1.2	0.1	26.5%
粗粒穀物							
生産量		1,455.49	1,506.45	1,494.29	▲ 0.8%	▲ 4.8	1,162.6
消費量		1,460.90	1,494.50	1,522.78	1.9%	▲ 0.2	1,142.0
期末在庫量		336.53	348.48	319.99	▲ 8.2%	▲ 3.3	176.5
期末在庫率		23.0%	23.3%	21.0%	▲ 2.3	▲ 0.2	15.5%
とうもろこし							
生産量		1,163.38	1,230.01	1,214.35	▲ 1.3%	▲ 3.5	903.3
消費量		1,172.76	1,217.22	1,238.47	1.7%	0.8	880.6
期末在庫量		304.67	317.46	293.34	▲ 7.6%	▲ 3.1	146.0
期末在庫率		26.0%	26.1%	23.7%	▲ 2.4	▲ 0.3	16.6%
コメ(精米)							
生産量		516.73	522.62	532.87	2.0%	▲ 0.8	476.0
消費量		520.26	523.77	530.24	1.2%	▲ 0.1	464.9
期末在庫量		180.66	179.50	182.13	1.5%	▲ 0.3	123.9
期末在庫率		34.7%	34.3%	34.3%	0.1	▲ 0.1	26.6%

【大豆】

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	(予想)	2024/25		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		378.16	394.97	424.26	7.4%	▲ 2.9	268.9
消費量		366.67	384.29	405.53	5.5%	1.9	265.4
期末在庫量		101.24	112.38	128.37	14.2%	▲ 3.5	58.3
期末在庫率		27.6%	29.2%	31.7%	2.4	▲ 1.0	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(January 10, 2025)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2025年 1 月10日発表)

【穀物】

(単位：百万トン)

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	(予想)	2024/25		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		406.43	458.90	451.56	▲ 1.6%	▲ 6.4	353.0
消費量		349.89	365.43	367.78	0.6%	▲ 0.4	317.1
輸出量		67.85	86.80	94.34	8.7%	▲ 0.6	51.6
期末在庫量		53.60	68.09	64.93	▲ 4.6%	▲ 5.2	44.2
期末在庫率		12.8%	15.1%	14.1%	▲ 1.0	▲ 1.1	12.0%
小麦							
生産量		44.90	49.10	53.65	9.3%	－	61.3
消費量		30.33	30.16	31.30	3.8%	0.1	37.8
輸出量		20.73	19.24	23.13	20.2%	－	27.5
期末在庫量		15.50	18.95	21.71	14.6%	0.1	19.5
期末在庫率		30.4%	38.4%	39.9%	1.5	0.1	29.9%
粗粒穀物							
生産量		356.45	402.88	390.86	▲ 3.0%	▲ 6.4	285.3
消費量		314.97	330.35	331.25	0.3%	▲ 0.6	275.5
輸出量		45.06	64.45	68.03	5.6%	▲ 0.6	20.7
期末在庫量		37.14	47.87	41.84	▲ 12.6%	▲ 5.1	23.5
期末在庫率		10.3%	12.1%	10.5%	▲ 1.6	▲ 1.3	7.9%
とうもろこし							
生産量		346.74	389.67	377.63	▲ 3.1%	▲ 7.0	273.2
消費量		305.93	321.92	321.71	▲ 0.1%	▲ 1.3	263.0
輸出量		42.22	58.23	62.23	6.9%	▲ 0.6	18.5
期末在庫量		34.55	44.79	39.12	▲ 12.7%	▲ 5.0	20.9
期末在庫率		9.9%	11.8%	10.2%	▲ 1.6	▲ 1.3	7.4%
コメ(精米)							
生産量		5.08	6.92	7.05	1.9%	0.1	6.3
消費量		4.60	4.92	5.24	6.5%	0.2	3.8
輸出量		2.05	3.12	3.18	1.9%	－	3.4
期末在庫量		0.96	1.27	1.38	8.7%	▲ 0.1	1.2
期末在庫率		14.4%	15.8%	16.4%	0.6	▲ 1.6	16.1%

【大豆】

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	(予想)	2024/25		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		116.22	113.27	118.84	4.9%	▲ 2.6	82.8
消費量		63.29	65.58	68.70	4.8%	0.03	48.6
輸出量		53.87	46.13	49.67	7.7%	－	36.1
期末在庫量		7.19	9.32	10.34	10.9%	▲ 2.5	3.8
期末在庫率		6.1%	8.3%	8.7%	0.4	▲ 2.1	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(January 10, 2025)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／(消費量＋輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考 1)

世界の穀物等の価格動向 (2024 年)

● 小 麦 : 5.29 ドル/bu (前年同時期の価格 : 6.16 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における 2025 年 1 月第 1 週末のセツルメント価格】

(史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022 年 3 月 7 日))

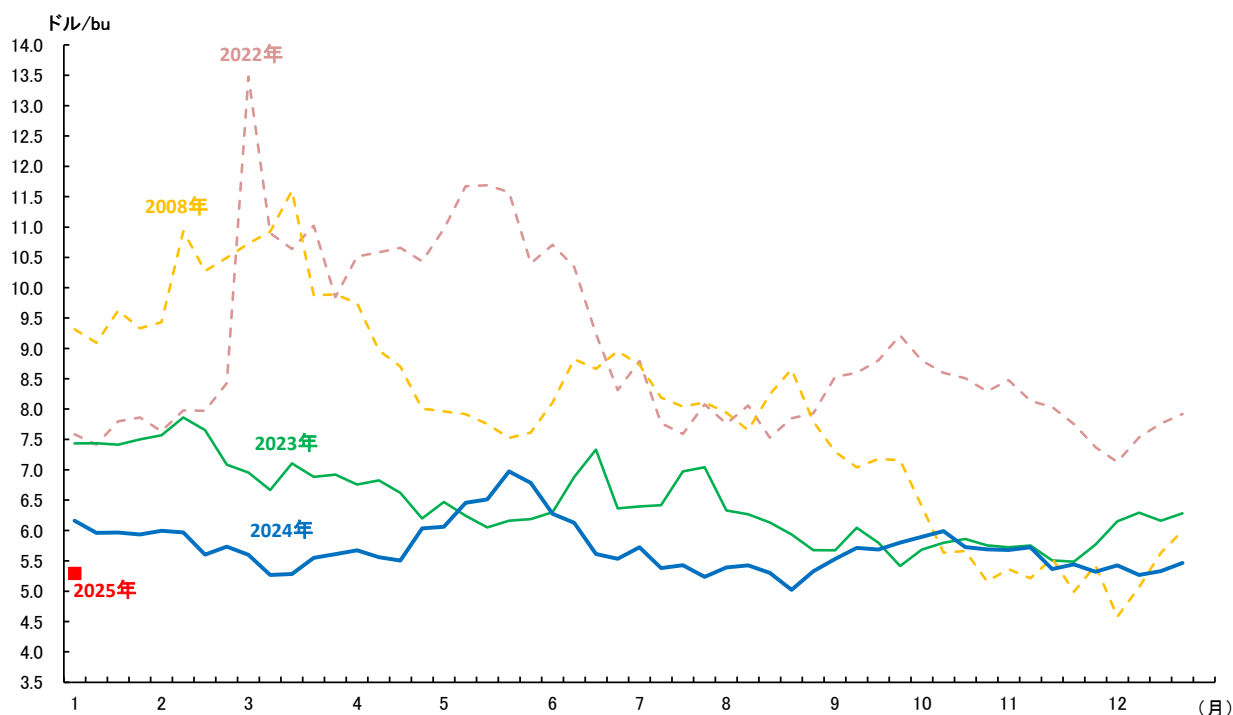
【1 月～6 月】2 月半ばにかけ、米国産の低調な輸出需要等から 6 ドル/bu 台前後で推移。2 月半ば以降、米国アウトルックフォーラムで 2024/25 年度の米国産期末在庫量が市場予想を上回ったことや米国産の低調な輸出需要等から下落し、5 ドル/bu 台半ばで推移。3 月上旬から 4 月中旬にかけ、ロシア及びウクライナからの潤沢な小麦供給と米国産の低調な輸出需要等から下落し、5 ドル/bu 台前半から半ばで推移。4 月下旬以降、ロシアの乾燥による減産懸念等を受け上昇し、5 月下旬には 7 ドル/bu まで値を上げた。その後、米国産冬小麦の良好な作柄と順調な収穫等を受け、6 月末現在、5 ドル/bu 台半ばまで値を下げた。

【7 月～12 月】7 月に入り、輸出成約高が市場予想を上回ったこと等を受けて 5 ドル/bu 台後半近くまで値を上げたものの、7 月上旬から 8 月下旬にかけ、米国産春小麦の良好な生産見通しや安価なロシア及びウクライナ産小麦の供給等から 4 ドル/bu 台後半まで値を下げた。その後、米国産春小麦の作柄悪化、EU、ロシア等の作柄懸念及び黒海周辺の緊張の高まり等から値を上げ、9 月末現在、5 ドル/bu 台後半で推移。

10 月に入り、EU、ロシア及びウクライナの作柄懸念や中東の緊張の高まり等を受けて 6 ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、米国農務省需給報告で世界の期末在庫量が引上げられたことや米国及びロシアの降雨等を受け値を下げ、10 月末現在、5 ドル/bu 台後半で推移。

11 月に入り、米国産冬小麦の作柄改善等から 5 ドル/bu 台前半に値を下げた。その後、ウクライナ・ロシア間の緊張の高まりで一時 5 ドル/bu 半ばに値を上げたものの、米国主産地等での良好な天候から、11 月末現在、5 ドル/bu 台前半で推移。

12 月に入り、ロシア産冬小麦の作柄懸念等を受けて値を上げ、12 月末現在、5 ドル/bu 台半ばで推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年及び2022年と直近3年の価格の推移

● とうもろこし：4.51 ドル/bu（前年同時期の価格：4.61 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2025年1月第1週末のセツルメント価格】

（史上最高値：8.31 ドル/bu(2012年8月21日)）

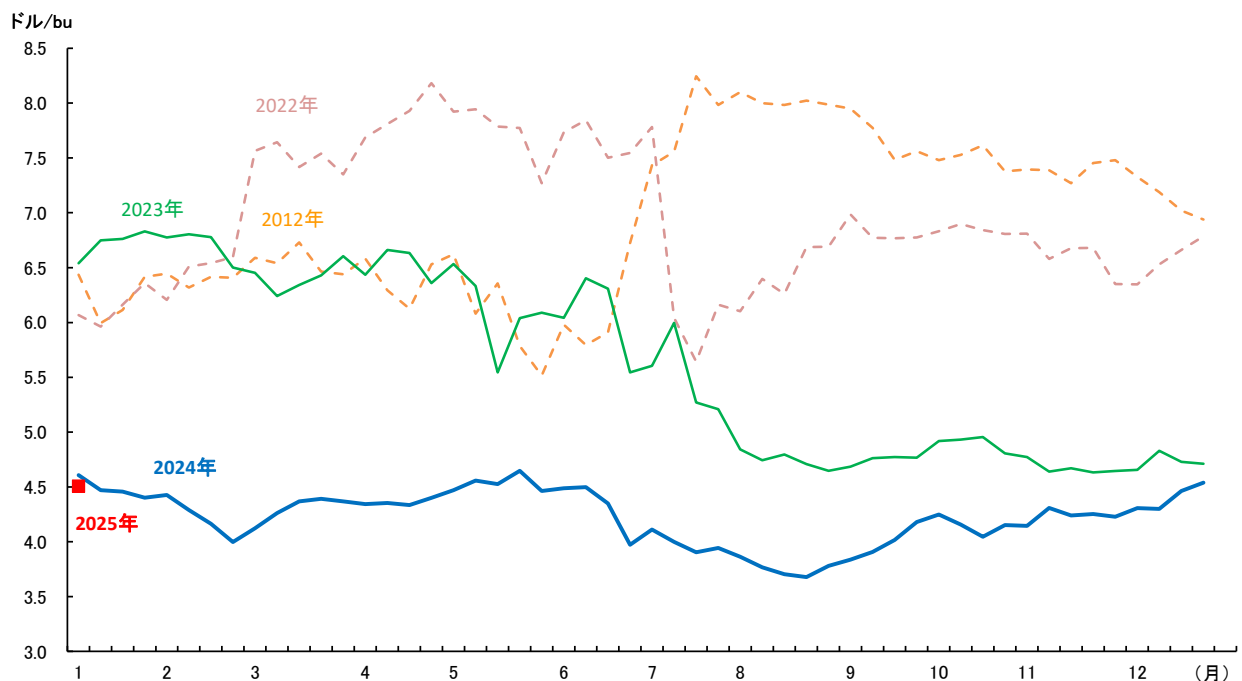
【1月～6月】1月に入り、南米の降雨予想や米国の低調な週間輸出成約高から4ドル/bu 台半ばまで下落し、2月下旬には、米国農務省需給報告等で米国産期末在庫量が市場予想を上回ったこと、南米の生産見通しの改善から4ドル/bu 割れまで値を下げた。3月下旬にかけ、米国産の堅調な輸出やアルゼンチンの降雨過多等による作柄懸念、米国の作付意向面積が市場の事前予想を下回ったことを受け、4ドル/bu 台半ばまで値を上げたものの、4月上旬にかけ、米国中西部での生産に適した天候が今春の作付け拡大につながるとの見通しから4ドル/bu 台前半まで値を下げた。6月中旬にかけ、中東での緊張の高まりを受けた原油価格の上昇や米国中西部での作付け遅延及びブラジル南部での洪水被害等を受け、4ドル/bu 台半ばまで上昇したものの、6月下旬には、米国中西部における降雨予報及び米国の作付面積予測が市場予想を大きく上回ったこと等を受け、6月末現在、3ドル/bu 台後半まで値を下げた。

【7月～12月】7月から8月下旬にかけ、米国中西部の降雨予報や良好な作柄及び米国の市場予想を上回る作付面積を受けて3ドル/bu 台半ばまで値を下げた。その後、米国中西部の乾燥による作柄懸念、黒海周辺の緊張の高まり及び米国農務省が発表した四半期在庫が市場予想を下回ったこと等を受け上昇し、9月末現在、4ドル/bu 台前半で推移。

10月に入り、原油や小麦への連れ高等で4ドル/bu 台半ば近くまで上昇したものの、ブラジル降雨予報、米国産の順調な収穫進捗及び潤沢な供給見通し等を受け値を下げ、10月末現在、4ドル/bu 台前半で推移。

11月に入り、米国産のメキシコ向け等の堅調な輸出需要及び米国農務省需給報告での米国産の生産量引下げ等により上昇も、南米の天候改善と豊作見通し等による下落を受けて4ドル/bu 台前半で上下し、11月末現在、4ドル/bu 台前半で推移。

12月に入り、米国産の輸出検証高が市場予想を上回ったこと、米国農務省需給報告での米国産の期末在庫量引下げ及びアルゼンチンの乾燥懸念等から値を上げ、12月末現在、4ドル/bu 台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移

● コメ：523 ドル/トン（前年同時期の価格：668 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2025 年 1 月第 1 水曜日の価格が公表されなかったため、2024 年 12 月の最終公表日と 2025 年 1 月第 2 水曜日の FOB 価格の平均値。また、前年同時期の価格も 2023 年 12 月の最終公表日と 2024 年 1 月第 2 水曜日の FOB 価格の平均値。】

（史上最高値：1,038 ドル/トン(2008 年 5 月 21 日)）

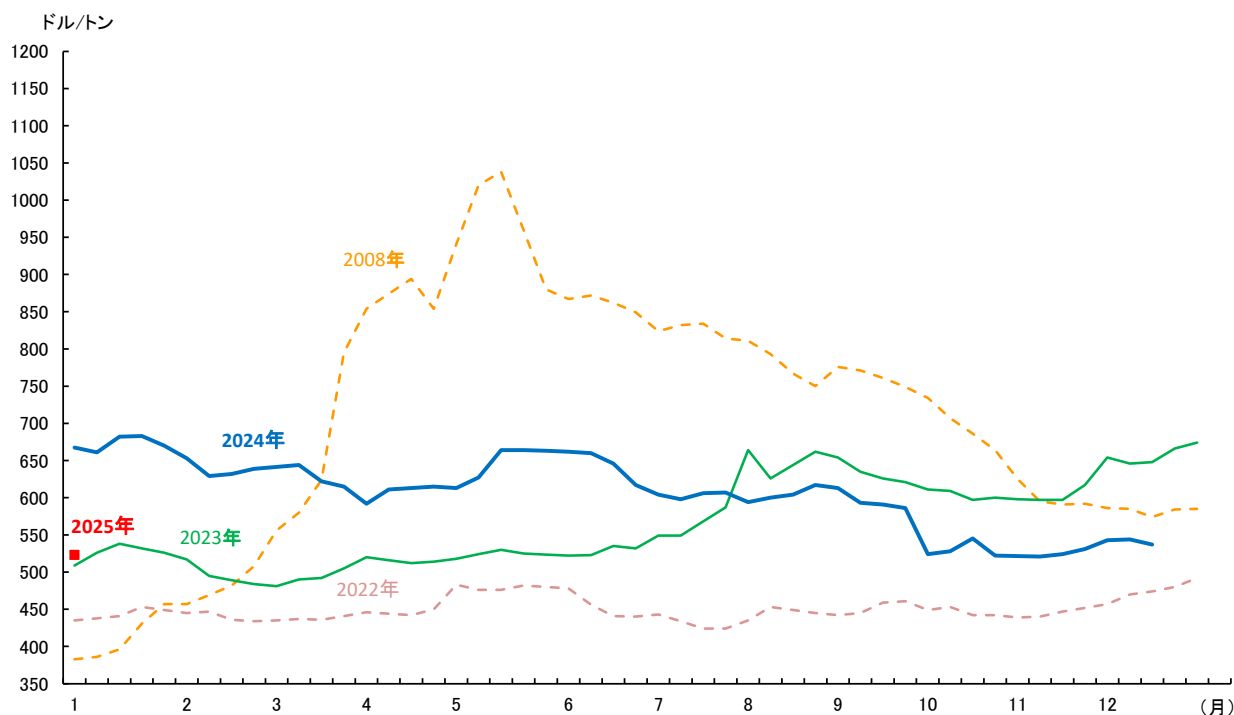
【1 月～6 月】1 月に入り、インドネシアの追加買付けや旧正月、ラマダーンなどを控えた ASEAN 諸国からの需要増加等から 680 ドル/トン台前半まで値を上げたものの、2 月に入り、旧正月でアジアの市場が停滞したことや、新穀の入荷待ちによる需要の軟化等から、一時的に 620 ドル/トン台まで値を下げた。3 月に入り、インドネシア政府の買付け等により 640 ドル/トン台半ばまで値を上げたものの、3 月中旬以降、新穀の市場への流入継続等から下落し、4 月上旬には 590 ドル/トン台前半まで値を下げた。その後、インドネシア政府の買付け予測等から上昇し、5 月下旬には 660 ドル/トン台半ばまで値を上げたものの、6 月中旬以降、タイ産米の価格がベトナム産米に比べ高いこと等による需要の軟化や国内価格の下落等から 6 月下旬現在、610 ドル/トン台後半まで値を下げた。

【7 月～12 月】8 月下旬にかけ、新穀の出回りによるタイ国内価格の低下やタイパーツ高等から 600 ドル/トン台前後で推移。その後、ASEAN 諸国やアフリカなどの需要増加等から、8 月末現在、610 ドル/トン台半ばまで値を上げた。9 月に入り、インドネシアのタイ産米への需要減少及び安価な他のコメ輸出国との競争により値を下げ、9 月末現在、580 ドル/トン台半ばで推移。

10 月に入り、インド政府による輸出規制の緩和及び撤廃によるコメの輸出量増加予測を受け値を下げ、10 月末現在、520 ドル/トン台前半で推移。

11 月に入り、新規の輸出需要の低迷や新穀の流通によるタイ国内のコメ価格の低下等も 520 ドル/トン台前半で推移。その後、インドネシアやフィリピン向け輸出需要により値を上げ、11 月末現在、530 ドル/トン台前半で推移。

12 月に入り、アジア及びアフリカからの強い需要等を受け 540 ドル/トン台半ばまで値を上げたものの、年末の休暇を控えて買い意欲が弱いこと及び安価な他のコメ輸出国との競合により値を下げ、12 月末現在、530 ドル/トン台後半で推移。



（注）タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格（各週水曜日）

グラフは、コメ価格が史上最高値を記録した2008年及びロシアがウクライナに侵攻した2022年と直近3年の価格推移。

● 大 豆：9.81 ドル/bu（前年同時期の価格：12.50 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2025 年 1 月第 1 週末のセトルメント価格】

（史上最高値：17.71 ドル/bu(2012 年 9 月 4 日)）

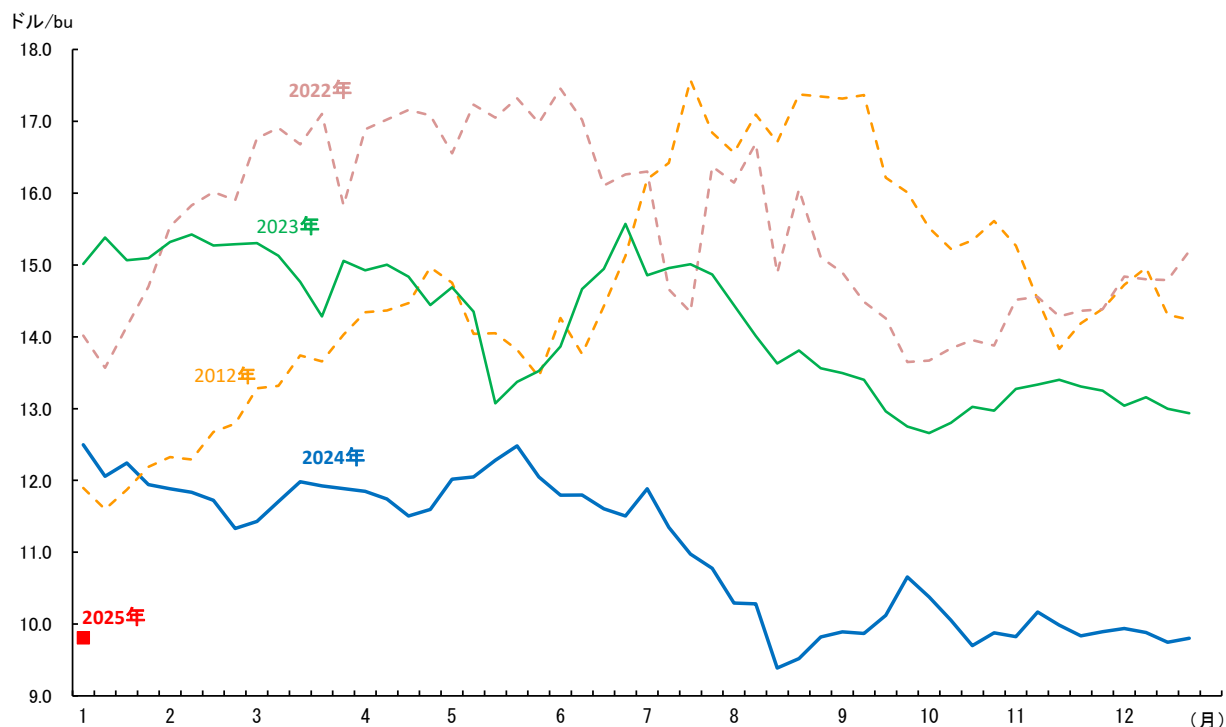
【1 月～6 月】1 月に入り、米国農務省需給報告で米国産の生産量が上方修正されたことや、アルゼンチンの増産見通し、ブラジルの降雨等を受け 1 月末にかけ 12 ドル/bu 台前半まで値を下げた。2 月末にかけ、米国アウトルックフォーラムで米国産の生産量、期末在庫量が市場予想を上回ったことや、南米産の収穫進展及び生産見通しの改善から 11 ドル/bu 台前半まで値を下げた。3 月下旬にかけ、米国産の堅調な輸出需要やブラジルの高温・乾燥による作柄懸念から 12 ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、4 月中旬にかけ、南米産の供給増を受けた米国の輸出需要の鈍化等から 11 ドル/bu 台前半まで値を下げた。5 月に入り、ブラジル南部での洪水被害等を受け 12 ドル/bu 台半ばまで上昇したものの、6 月下旬にかけ、米国産の順調な作付進捗及び米国の作付面積予測が市場予想を上回ったこと等を受け、6 月末現在、11 ドル/bu 台半ばまで値を下げた。

【7 月～12 月】7 月から 8 月中旬にかけ、米国中西部の降雨予報や良好な作柄や米国農務省需給報告で世界の生産量と在庫量が市場予想を上回ったこと等を受けて 9 ドル/bu 台半ばまで値を下げた。その後、米国中西部の乾燥による作柄懸念、米国の輸出成約報告が市場予想を上回ったこと及び米国農務省需給報告で米国の生産量と期末在庫量が市場予想を下回ったことやブラジルの乾燥による作付け遅延懸念等から値を上げ、9 月末現在、10 ドル/bu 台半ばで推移。

10 月に入り、ブラジルでの降雨予報、米国産の順調な収穫進捗及び潤沢な供給見通し等を受けて値を下げ、10 月末現在、9 ドル/bu 台後半で推移。

11 月に入り、米国農務省需給報告での米国産の生産量引下げ及び植物油の上昇等を受けて 10 ドル/bu 台前半まで上昇したものの、ブラジルの良好な天候、米国大統領選結果を受けた対中関税賦課及びバイオ燃料政策による米国産への需要懸念等を受けて下落し、11 月末現在、9 ドル/bu 台後半で推移。

12 月に入り、ブラジル産の豊作見込み等を受けて 9 ドル/bu 台半ばまで値を下げたものの、安値の反動からの買いやアルゼンチンの乾燥懸念等から値を上げ、12 月末現在、9 ドル/bu 台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セトルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.40
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
108.99	106.73	109.89	131.57	130.20	132.68	133.85	133.33	137.37	141.19	141.21
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
144.77	147.67	149.53	149.83	144.07	146.57	149.42	149.63	153.43	156.13	157.82
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
158.06	146.23	143.38	149.63	153.72	153.72					

出典： 為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
45.01	38.28	65.79	60.71	45.62	42.50	48.46	52.10	46.37	43.25	42.73
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
49.49	52.48	51.30	52.75	56.27	51.39	50.39	54.74	53.56	54.31	53.28
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
53.50	53.27	49.11	46.72	43.00	40.71					

出典： 米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

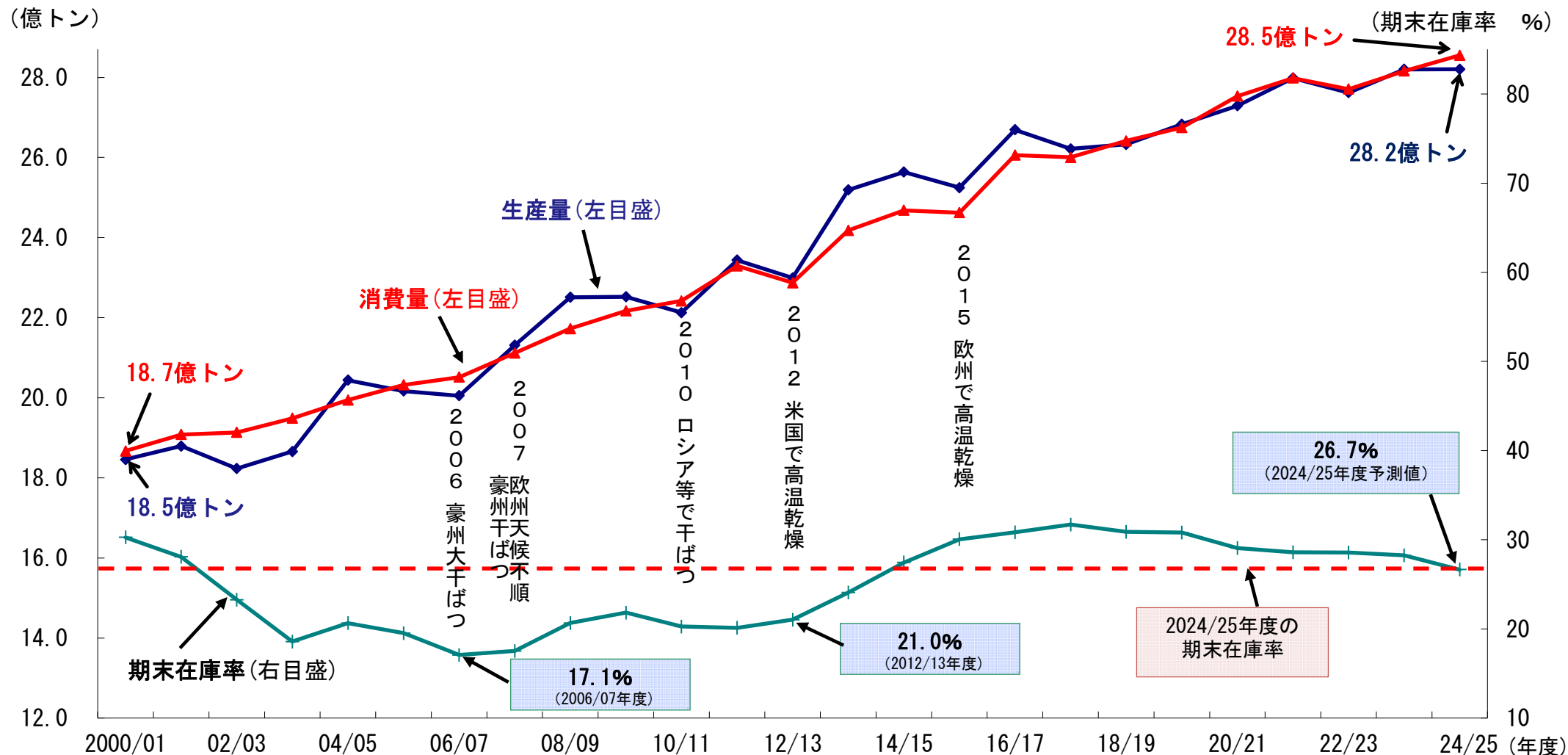
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	92.91	48.76	43.47	50.85	64.90
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
57.04	39.34	68.08	94.33	78.16	76.86	73.37	79.50	71.62	70.27	76.03
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
81.32	89.43	85.47	77.38	72.12	73.86	76.61	80.41	84.39	78.62	78.70
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
80.48	75.43	69.37	71.56	69.54	70.12					

出典： 内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和6年12月, 116頁
但し、2024年12月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の日次データの平均値。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、26.7%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(January 2025)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。